バングラデシュ南部避難民支援事業

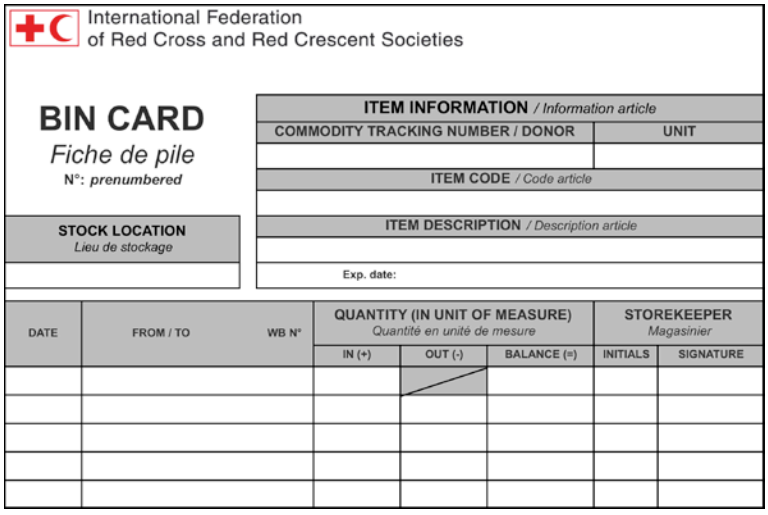
薬剤師　仲里　泰太郎

（派遣期間:2018 年 8 月 1 日～8 月 31 日）

私は 2018 年 8 月 1 日から 8 月 31 日まで日本赤十字社（以下、日赤）の海外派遣要員として、バングラデシュ・コックスバザールで、ミャンマーからの避難民の医療救援業務を行ってきました。標記の事業は緊急フェーズを終え中長期の保健支援事業となっており、私の主な目的の一つはバングラデシュ赤新月社（以下、バ赤）へと薬剤師/メディカルロジスティシャン（以下、メドログ）業務を移管することでした。メドログとは、日本での薬剤師の業務を越えて、薬剤や医療資機材の購入や保管、輸送など広範囲の業務をカバーするポジションです。

私はこれまで緊急フェーズ時に同地へ 2 回派遣されていましたが、今回は前 2 回とはまた違った業務内容となりました。更にこれとは別に、フィンランド赤十字社が運営しているフィールドホスピタルへ薬剤師/メドログとして支援するという業務も行いました。前回派遣時にも 1 週間程度同様の支援を行いましたが、今回は 1 ヶ月継続的に支援業務を行うことで、フィールドホスピタルから様々なことを学ぶことができました。

バングラデシュに到着後、私はまず現地の日赤プロジェクトマネージャーと話し合い、私の希望を通して頂く形で、週の半分をフィールドホスピタル支援に行かせて頂くことになりました。また、薬


International Federation
of Red Cross and Red Crescent Societies

BIN CARD
Fiche de pile
N°: prenumbered

STOCK LOCATION
Lieu de stockage

ITEM INFORMATION / Information article
COMMODITY TRACKING NUMBER / DONOR | UNIT
ITEM CODE / Code article
ITEM DESCRIPTION / Description article
Exp. date:

DATE	FROM / TO	WB N°	QUANTITY (IN UNIT OF MEASURE) Quantité en unité de mesure			STOREKEEPER Magasinier	
			IN (+)	OUT (-)	BALANCE (=)	INITIALS	SIGNATURE

BIN カード

剤師/メドログ業務の移管を予定より早く 1、2 ヶ月で終了させるという計画も立てました。緊急フェーズ終了後、医薬品・医療資機材の管理をする専門職がいなかったこともあり、まず私はこれらの日赤の在庫を総整理することから取り掛かりました。医療資機材は全て日赤が管理しているクリニックのテントにあり、これらを全てカウントし、それぞれについて出納帳（以下、BIN カード）を作成しました。医薬品と医療資機材のどちらもクリニックの薬局で一括管理とするため、この BIN カードの運用方法を薬局で働いてくれている避難民ボランティアに教えていきました。ただ、数が限られた医薬品とは異なり、150 種類以上の医療資機材の英語名を医療のバックグラウンドが無い方に出庫ごとに覚えてもらうことはかなり難しい作業となりました。

クリニックの薬局については、緊急フェーズ時に各日赤の薬剤師が避難民ボランティアの方に業務を教え込んでいたので、ある程度はうまく機能していました。ただ、横で見ているとミスがかなりあったので、これらミスを無くすような業務手順書を作成し、避難民ボランティアの方々に改めて教育することで質が担保できるような薬局になりました。

クリニックで調剤を行う避難民ボランティア

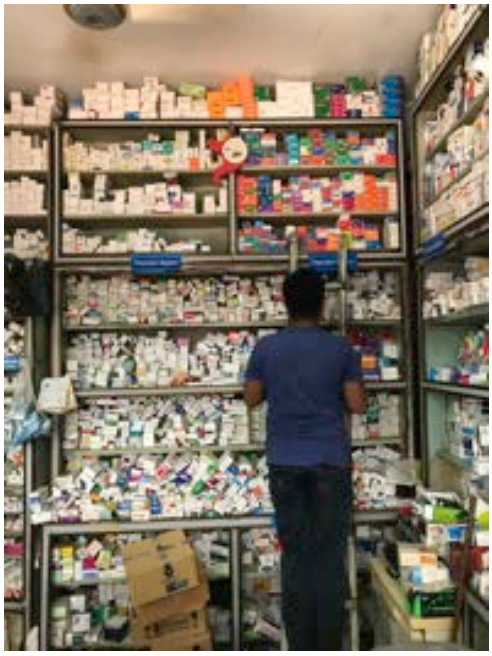
一通り環境を整えた後は、バ赤への業務移管に向けて準備を始めました。日赤クリニックで働いているバ赤スタッフの中に薬剤師はいなかった為、看護師さん 2 人、事務管理要員 1 人への移管を想定して各業務手順書を準備しました。予定は、1 ヶ月で環境を整え、各手順書等の作成を行った後、次の日赤派遣薬剤師がそれらを基に 1 ヶ月で移管を終えるというものでした。従って今バングラデシュに派遣されている薬剤師が予定通りに業務を遂行できれば、10 月以降は日赤から薬剤師/メドログを派遣しなくても問題のない形になるはずです。

一方、フィールホスピタルの薬局は私の他に、デンマーク赤十字社のロジス

ティシャン１名、バングラデシュの薬剤師が１名という組み合わせでした。彼ら２人はフィールドホスピタル内のテントに居住し、一方の私は市街地から車で送ってもらい通勤していました。

デンマーク赤十字社派遣要員、バングラデシュ薬剤師と

　このデンマークの方はエボラの対応等かなりの経験を持った方で、彼からメディカルロジスティクスについて色々教わりました。但し、彼はメディカルのバックグラウンドが無い為、私は彼からメディカルロジスティクスについて学ぶ一方で、代替薬の提案や薬剤の質問に対しては私が対応するという住み分けをしていました。バングラデシュの薬剤師は新卒だったので、まだ薬剤にそれほど詳しくなく、学びながら私達と種々の業務を行っていました。



現地の薬屋さん

　フィールドホスピタルの医薬品・医療資機材は寄付された物か、現地購入した物になります。寄付は各書類や目録が必要ですが、これら書類はメールでフィンランド赤十字社に送られるのではなく、フィンランド赤十字社が管理している各事業毎のウェブサイトにアップロードする形で共有されます。寄付に関する書類だけでなく、フィンランド本社と共有しなければならない書類は全てここにアップロードされていました。かなりレイアウト等も見やすく、いいシステムだと感じました。現地購入の場合は、予め選定してある医薬品メーカーや医療機材メーカーから見積もりを取った後に購入しています。選定した医薬品メーカーに無い薬

剤は、町の薬屋で購入することになります。日本では考えられませんが、ワクチンとモルヒネは町の薬屋で購入していました。但し、品質を担保するため、バ赤推奨の１店舗でしか購入していませんでした。血液は、日本のように最寄りの血液センターから持ってきてもらっていました。

　この他にもフィールドホスピタルでは薬局以外にも色々回らせてもらい、日赤クリニックとはまた異なった設備を見させて頂きました。

血液型判定キット

フィールドホスピタルの
助産師さんと

　今回１ヶ月という短い間でしたが、様々な経験や業務をさせて頂きました。これらの経験を今後の海外支援や院内業務に活かしていきたいと思います。

※国際赤十字では、政治的・民族的背景及び避難されている方々の多様性を配慮し、「ロヒンギャ」という表現を使用ないこととしています。